

稚内北星学園大学 2017 年度入学式・式辞

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。稚内北星学園大学を代表して、みなさんを歓迎し、入学をお祝いいたします。新入生のご家族、関係者の皆様にも心からお喜びを申し上げます。

また本日は、稚内市長をはじめたくさんのご来賓の方々にご臨席をいただき、まことにありがとうございます。

学校法人・稚内北星学園は 1987 年、本学の前身となる短期大学の開学時、「地域社会に貢献する人材の育成」を建学の精神として掲げました。それは、稚内市および地域の各界が、宗谷全体の発展を遂げるための不可欠な柱として高等教育機関の設立を位置づけ、北海道で最初の公設民営大学として本学園を設立したという経緯に依っています。

以来、2000 年の四年制大学への改組を経て現在に至っていますが、「地域社会に貢献する人材の育成」という建学の精神を引き継ぎつつ、本学と地域の関係は現在、さらに新しい段階にあります。

文部科学省が選定した、地域の知の拠点、Center of Community、略して COC として五年間の事業補助を受けてから 4 年目を迎えます。この COC 事業は、大学と地域の連携を深める活動の中で学生を育成するということを目的としているのですが、この事業をきっかけにして、地域で学生が活躍する機会がとて多くなりました。

〈街を教室に〉した学生のさまざまな取り組みが市民の方々に認知され、励まされ、そのことが〈街に育てられる〉経験として学生の大きな成長をもたらしているのです。

新入生のみなさん、みなさんはもちろん、教室で学びますし、パソコンの並んだ実習室でも学びます。また図書館や、ロビーの隣にある「わくほくメディアラボ」、そして学生研究室でも学ぶことになるでしょう。しかしそれだけでないことは今申し上げました。

学生が地域で活躍しながらどのように学ぶことができるのか、いくつかの事例をここで紹介したいと思います。

一つは、地域の子どもたちへの学習支援です。教職課程で学ぶ学生を中心に、稚内市の「学力向上グングン塾」では小学生の指導助手を務め、利尻町や豊富町では夏休みなどに開かれる小中学生の勉強会での学習支援を行い、猿払村とはインターネットで結んで小学生を対象に遠隔学習支援を試み、さらに中央商店街に設けた「まちなかメディアラボ」では無料塾での指導に携わるなど本当に頑張っています。

数学とその教授法、教育者として必要な素養を教室で学び、さらにそれを実践の場で鍛える機会がこれだけあるというのは、とても貴重なことです。「こんな教え方でいいのだろうか」「子どもときちんとコミュニケーションが取れているのだろうか」、そうした葛藤を抱えながらも、経験の積み重ねによって自らの成長を実感できるに違いありません。

二つには、映像作品による地域情報の発信です。昨年度も、本学の学生が制作した映像作品への表彰が続きました。『私たちは、【カラフト】を知らない。』が文部科学大臣賞を受賞したほか、総務大臣奨励賞、北海道総合通信局長賞を受賞した作品もあります。

このように、2000年に四年制大学になって以来、映像の撮影・編集のスキルを身に付けて地域情報を発信する学生の活動は本学の“お家芸”のようなものとして育ってきました。豊富町PRドラマ『エゾカンゾウの咲くまちへ』は、そうした本学学生の実績への信頼と期待から制作が依頼されたものです。

選択したテーマに関する入念な調べや取材は欠かせませんし、登場いただく方との交渉、スケジュール管理、スタッフ間の調整などつまづくことも多いかも知れません。しかしだからこそ、そこで育まれる力は得難いものとなっているはずです。

三つ目の事例は、イベントの企画・運営です。一昨年度と昨年度の二月に行われた「稚内コーヒーフェスティバル」は、本学学生の手によるものです。庶民がコーヒーを飲んだ日本で最初の地が稚内であるという歴史的な背景を踏まえつつ、街の賑わいを創出しようと立案されたものです。昨年度の2回目のフェスティバルでは、参加した喫茶店は30店舗に増え、2週間のイベント期間内にチケットを利用して消費されたコーヒーは2,000杯を超えました。

イベントへの参加や支援を要請するために喫茶店や各種団体を訪れて趣旨を説明し、保健所などの許可を取り、ポスターなどをデザインして印刷会社に発注し、売って回り、財務管理をし、当日の運営を行う — まさしく、いわゆる“社会人力”を身に付ける場となりました。

ほかにも、本学の学生が主体となって実施してきた活動には、さまざまなボランティア、わっぴーの番組制作、商店街実態調査、サンタラン、観光ガイドアプリの制作など多くのものがあります。いずれも、苦勞のしがいのある取り組みであり、そこから多くのことを学ぶことができます。

新入生のみなさんも、ぜひ、学校の中でも外でも学んでください。

ただし、本学の学生としてみなさんに必ず身に付けていただかなければならないのは、「情報メディア」の総合的な基礎力です。PCやインターネットを「使う」だけでなくその仕組みを知ること、情報メディアを活用して自らが情報の効果的な表現者になれること、

メディアに流通する情報の影響力を理解して適切な取捨選択を行えることなどが、それに当たります。学年が進めば、関心に応じてより専門的な学習に進むこととなりますが、卒業時には「情報メディア学」の学士として全般的な力を身に付けておられるよう努めてください。その際、地域での活動は、そうした力を発揮する大切な実践の機会ともなります。

もう一つ、新入生のみなさんに訴えたいのは、「本を読んでください」ということです。それこそ、今日の情報メディアによって私たちには絶え間なく膨大な情報がもたらされます。しかしその多くは断片的なものであり、またすぐに忘れ去られてしまうものです。

誰が言ったのか記録していないのですが、最近こんな言葉を見ました。「“今だけ”しか見ないと、“今何が起きているのか”はわからない」。流れ去っていく情報を追っているだけでは、それらの現象全体が持つ社会的な意味あるいは歴史的な意味は理解できない、ということだと思います。

一か所を“微分”した値だけではどのようなグラフであるかはわかりません。“積分”していったその全体像が見えるようにしたい。あるいはもう一つ別の言い方をすると、川の流れのままに漂うのではなく、その川がどこからどこに向かっているのかを上から見たい、そういう俯瞰的な視点を得るために必要なのが、まとまりのある本というものの、特に論説を読むことです。

本学のカリキュラムは、そうした力を身に付けていただくことにも、意を払っています。

どうぞ、旺盛に学んでください。

大切な4年間です。みなさん一人ひとりのこれからの大学生活が実り多いものとなりますよう祈念いたしまして、式辞といたします。

本日は、誠に、おめでとうございます。

2017年4月1日

稚内北星学園大学 学長・斉藤吉広